

園だより 3月

わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。
コリントの信徒への手紙Ⅲ 3章6節

月初めには積雪もありましたが、だいぶ春らしい日々になってきた2月でした。園庭のはくもくれんも例年の通り蕾が膨らみ、春の訪れを告げています。今年度の幼稚園生活の残りの日々を指折り数えながら大切に過ごしたひと月となりました。けれどもそんな名残惜しみながらの思いでいるのは大人たち。子どもたちはというと、思いは今の世界、そして次々へと展開される（展開する）先の世界に思いを馳せています。意識して思っていることではなく子どもたちにとっては至極当然な思考でしょう。そんな日々の中で、2月も感動のエピソードが満載でした。

ある日の出来事。そろそろ片付けのころ、記録写真を撮っていた保育者にAくんが、積み木で作っていた作品を、明日も続きをしたいから撮っておいて欲しいと頼みました。保育者が要望通り撮ろうとした時、Bくんが「こっちでも撮れるよ」と、折り紙で作ったいわゆるぱっちゃんカメラで保育者と一緒にAくんの作品を撮影しました。その後の出来事です。Aくんがどんな風に撮れた？とカメラを覗きました。なんと、その覗いたカメラは保育者のカメラではなく、Bくんのぱっちゃんカメラの方でした。なんとも自然な様子で2人はぱっちゃんカメラを覗き込み、話をしていたようです。このエピソードを聞いた私は感動で涙が出そうでした。まさに見えないものに目を注ぐ（聖書の御言葉）でした。その世界を体現している二人の感性、多くを語る必要は無いと思います。幼稚園生活の日々で育まれた豊かな感性。江東YMCA幼稚園が育みたいと願い、保育者たちが日々、その思いを持ち続けながら子どもたちと向き合い過ごしている日々であるからこそ生まれたエピソードであると思います。

感性をフルに使いひたすらに遊び込む子どもたち。その日々の中でどれほどの全人的な成長が成されていることでしょうか。～が出来るようになるというような目に見える成果を求め続ける日々では決して育まれることの無い、子どもたちの豊かに育った感性によって展開されたエピソードです。このようなエピソードがここここで繰り広げられる恵みに溢れた日常、なんて嬉しいことでしょうか。育まれた豊かな感性を心に根付かせた子どもたちは、これからも自らより素晴らしい環境を求めそこに身を置き、成長し続けることでしょうか。

年度末の日常の中、保育者たちはその大切な育みに目を向け、寄り添い、共感しそこから更なる成長へと子どもたちを導いていきます。今年度最後の3月の日々。短い日数ですが、満ち足りたときとして過ごしてまいります。宜しく願い申し上げます。

園長 駿河 幸子